横田英史の 書籍紹介コーナー

人工知能プロジェクト「ロボットは東大に入れるか」：第三次AIブームの到達点と限界

新井紀子（編者）、東中竜一郎（編者）
東京大学出版会　3,024円（税込）

2011年から5年にわたり続けられた人工知能プロジェクト「ロボットは東大に入れるか」の技術的な内容と結果を紹介した書。センター模試という身近な話題を扱いつつ、第3次AIブームの到着点と限界を論じる。本書は「東ロボ」のシステムの中身について主に研究者に伝えることを目的としており高度な技術的内容が含まれているが、それなりに読みこなせるので心配ない。

東ロボが対象としたのは英・国・世界史・数・物理の5科目。それぞれの解答器について具体的に紹介するとともに、何に躓いたのか、今回見つかった課題をクリアするための今後の指針を明らかにする。5科目のなかでは数学と世界史で優れた成績を収めた。一方で物理では実世界の現象を意味表現に正確に変換することの難しさ、英語と国語では実世界を表す言語現象の複雑さに直面したという。

the four GAFA 四騎士が創り変えた世界

スコット・ギャロウェイ、渡会圭子・訳
東洋経済新報社　1,944円（税込）

ニューヨーク大学スターン経営大学院教授で、9つの会社を起業した連続起業家が、ディスラプションの４騎士であるGAFA（Google、Apple、Facebook、Amazon）の戦略を分析し、教訓を引き出した書。MBAの先生らしく、GAFA時代にどのようにキャリアを形成すべきかについても言及する。

筆者は政府やライバル企業を欺いて知的財産を盗んでいる、ペテン師から成り上がって盗みがコアコンピタンスと、かなり批判的にGAFAをとらえる。例えばAppleやJobsは法律に縛られていない、Facebookは強欲、保守的、税金逃れと評する。一方で、他の人には見えない価値を見抜き、価値を引き出したとも評価する。

著者はGAFAには８つの共通点があるとする。商品の差別化、ビジョンへの投資、世界展開、好感度、垂直統合、AI、キャリアの箔付けになる、地の利である。

VRは脳をどう変えるか？ ～仮想現実の心理学～

ジェレミー・ベイレンソン、倉田 幸信・訳
文藝春秋　2,376円（税込）

VR（バーチャル・リアリティ）のインパクトを世界的権威のスタンフォード大学教授自らが紹介した書。米Facebook社がVR向けヘッドマウント・ディスプレイで知られる米Oculus社を20億ドルで買収する直前に、CEOのザッカーバーグが同教授の研究室を訪問した話など、非常に興味深いトピックが満載だ。VRの潜在的な可能性と社会的な意義を明らかにするとともに、脳に与える危険性とコンテンツ作成の注意点などについて言及する。

教授が指摘するのは、VRでの体験を現実の出来事として扱う「心理的臨場感」によって脳に影響が出ること。メリットにもデメリットにもなり得るが、PTSDの治療や痛みの緩和などメリットの多くは寡聞にして知らなかった。いずれの例もちょっと凄い。VRで第3の腕を増やしても、脳は変化に対応して短時間に使いこなせるようになるという。

拡張の世紀 ～テクノロジーによる破壊と創造～

ブレット・キング、上野博・訳
東洋経済新報社　2,592円（税込）

テクノロジーによるディスラプションを振り返りつつ、2040年くらいまでをカバーした未来予測レポート。最新の技術や企業の描く未来予測を、事例を含め幅広く取り上げており頭の整理に役立つ。特徴は、技術に関する“負”の側面はほとんど無視した楽観主義に貫かれているところ。

著者が主張する「拡張の時代」では、テクノロジーの埋め込み化と個人化が急速に進み、日常生活や行動が拡張されるという。本書では、ヒト型ロボット、自動運転、遺伝子治療。ブレイン・マシン・インタフェース、バイオニック耳、空飛ぶクルマ、ブロックチェーン、スマートシティ、AR、VRといった話題を取り上げる。今後15年のうちに人間の運転を禁じる都市が出てくる、保険会社は人間の運転するクルマの方にはるかに高い保険料を課す、といった話は興味深く読める。

横田 英史（yokota@nikkeibp.co.jp）
1956年大阪生まれ。1980年京都大学工学部電気工学科卒。1982年京都大学工学研究科修了。
川崎重工業技術開発本部でのエンジニア経験を経て、1986年日経マグロウヒル（現日経BP社）に入社。日経エレクトロニクス記者、同副編集長、BizIT（現ITPro）編集長を経て、2001年11月日経コンピュータ編集長に就任。2003年3月発行人を兼務。
2004年11月、日経バイト発行人兼編集長。その後、日経BP社執行役員を経て、2013年1月、日経BPコンサルティング取締役、2016年日経BPソリューションズ代表取締役に就任。2018年3月退任。
2018年4月から日経BP社に戻り、日経BP総合研究所 グリーンテックラボ 主席研究員、2018年11月ETラボ代表、現在に至る。
記者時代の専門分野は、コンピュータ・アーキテクチャ、コンピュータ・ハードウエア、OS、ハードディスク装置、組み込み制御、知的財産権、環境問題など。
＊本書評の内容は横田個人の意見であり、所属する企業の見解とは関係がありません。